

Yoshiko's MAGAZINE

Restart

[よしこマガジン・リスタート]



心の中にまだ
燃料は残っていますか？

【簡易版】
私の振り返りシート

自分で用意する会葬礼状
こころの置き手紙

動き出すために
必要な4つのツール

やりたいことを見つけるために
エンディングノート活用術

リスタートに必要な2つのキーワード
アイデア+ツール

IDEA+TOOL

人生最後の瞬間に 「楽しかった」と言いたくて

人生の折り返し地点に立ったとき、「私の人生、このままで終わってもいいのだろうか？」という疑問が頭をもたげてきました。

それからずっと“何か”がくすぶり続けながらも、突破口が見えずにいました。

暗中模索が続くなか、2、3歩踏み出したときに、ひとつの出会いがありました。その出会いにより、私はまだ心の中に、動き出すための“燃料”が残っていることに気づいたのです。

そして間髪入れずに、人生において何度目かの“リスタート（再起動）ボタン”を押しました。

「私の人生は、所詮こんなものだ」と思いながら生きていけないために。命尽きるそのときに感じる後悔をできるだけ少なくするために。

年齢に関係なく心の中に少しでも燃料が残っていれば、リスタートは可能です。私がそうであったように。

自分の中に埋もれている何かを探し出すこともリスタートの始まりです。恐れずに、再びの一步を！ そのためのお手伝いが少しでもできたら幸いです。

櫻木よしこ

実際にリスタートしてみたい方へ

Restart／リスタートへのナビゲーション

“リスタート”といってもビジネスアイデアを持って“起業する”だけではなく、趣味をサイドビジネスにするべく挑戦してみるということでもいいと思います。また「何かやってみたいけど、その何かがわからない」という状況でも、あまり考え込まずに挑戦してみませんか？

リスタートに必要なもの



IDEA

アイデア



何をやりたいのか？

👉 P4~7

TOOL

ツール



やりたいことを発信、
紹介する方法

👉 P8~9

“アイデアとツール”このどちらかだけがあっても、うまく回りません。

この両方を準備し、もしくは準備しながら走り始めることをおすすめします！

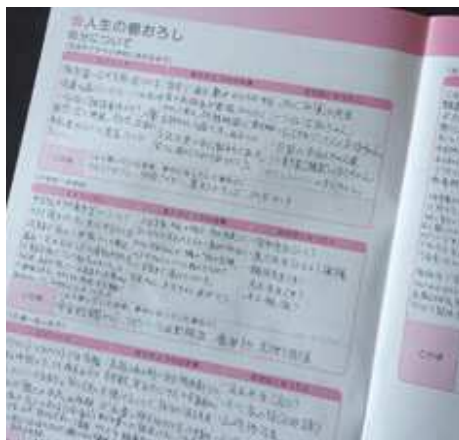
次のページから“アイデア編”、“ツール編”としてご紹介します。

やりたいことを見つけるために “エンディングノート”を活用する

ただ漠然と頭の中で、「何をやりたいのか(できるのか?)」を考えていても何も始まりません。頭の中にあるものを整理し、やりたいことを見つけ出すには、まず、自分のこれまでを振り返る、いわゆる“人生の棚卸し”を試みるのが大切です。

小さい頃、何が得意だったか? 何が好きだったか? どんな出来事があったか? 様々なことをすぐに思い出せますか? 忘れていたことのほうが多く、思い出したとしても何かに書き留めておかなければ、またすぐに忘れます。

そこで、振り返り用のツールとしておすすめしたいのが“エンディングノート”です。人生の終焉のための準備ノートというイメージが強いですが、実は自分のこれまでを簡潔に振り返ることができるツールとしても役立ちます。エンディングノートを書き進めていくと、自分が



楽しかったことや苦手だったこと、熱中していたことを思い出し、その中で忘れていた人の存在を思い出すこともあります。項目に沿って思い出したことを書いていくと、自分のこれからに必要な“キーワード”が見えてくるはずです。

エンディングノートを書く5つのメリット

- 残りの人生について考えるきっかけになる
- 自分の気持ちを整理できる
- 判断に迷ったときの参考書になる
- 自分にとって必要なものや不要なものが見えてくる
- やりたいことの手がかりが見つかる

リスタートした後も、自分が書いたものを読み返す

いざ、走り出すと、何かにつまずいたり、失敗することもあるはず。そんなときに、エンディングノートを読み返してみると、アイデアのヒントを見つけたときの気持ちや、これまで自分を応援してくれた人たちのことを思い出さずにはいられません。そして、「なぜ、起業したのか?」「なぜリスタートしたのか?」という原点に戻り、気持ちを立て直すこともできると思います。リスタートするまでも、そしてリスタートしてからもエンディングノートはいつもそばに置いておくことをおすすめします。

自分に合ったスタイルで 気持ちに向き合い書いてみる

ほとんどのエンディングノートには、自分を振り返るページが設けられています。そのページ数のボリュームはそれぞれですが、学歴、職歴、家族との思い出、自分が生まれてからこれまでの出来事、よく聞いていた音楽、お世話になった人、旅した場所など、様々な角度から振り返られるように構成されているものもあります。

エンディングノートの種類は豊富で、書店でもインターネットでも購入可能です。しかし、できれば直接、書店で手にとって内容を吟味するほうが自分に合うものを選べるでしょう。

エンディングノートを購入したら次はよいよ書く作業に入りますが、その場合2つのスタイルがあります。

①自分ひとりで書く

自分ひとりでじっくりと気持ちを落ち着かせながら書くことで、思い出すこともあります。日記やアルバムを引っ張り出し、懐かしく見ながら記憶の糸をたぐりよせるのも大事な作業です。ただ、ひとりだとメリハリがきかないというデメリットがあります。

②エンディングノート講座で書く

講座に参加するということは、一人でゆっくりと書くというわけにはいきませんが、他の人と話することで忘れていたことを思い出すことはよくあります。参加者と意見を交えながら自分の考えを整理していくのは、思いのほか効果的です。

エンディングノート(自分の棚卸し用)を選ぶ3つのポイント

- 振り返り項目が多いタイプを選ぶ
- ブックタイプよりノートタイプを選ぶ
- 紙質が良いものを選ぶ

“私のエンディングノート入門”講座



このエンディングノート講座は、今までの自分を振り返り、現在の状況を明確にし、これから何をしたらいいのか、何をしたいのか、そして行動を起こすために自分が持っているものは何かといったことを把握するための構成になっています。

終活に関する知識も学びながら、エンディングノートを書きこむ時間をしっかりと設けます。一人ではなかなか書けないエンディングノートを参加者とともに書きながら、時には意見交換もします。自分と向き合うことを通して、何か新しい発見がきっとあるはずです。

(株)住まいず様でも“私のエンディングノート入門”講座を開講しました!
<http://www.sumais.co.jp/>

- 全3回(2時間×3回) ※1回のみ講座も別途あります
 - 講師/櫻木よしこ(上級終活カウンセラー・エンディングノート書き方講師)
 - 参加費/6000円(3回分) ※エンディングノート代 別途1000円
- お問い合わせ yoshikoskrg@gmail.com

エンディングノートを書く前に
少しだけ振り返り体験をしてみませんか？

私の振り返りシート(簡易版)

以下に書かれている質問に答えることで、自分を振り返るという作業に少しトライしてみませんか？ すぐには思い出せないこともあると思いますが、焦らず記憶を遡ってみましょう。

1. 自分の名前の由来

[]

2. どういう習い事をしたことがありますか？

[]

3. 人生で初めてのチャレンジはどんなことでしたか？

[]

4. これまでに達成感を得られたことは、どんなことですか？

[]

5. あなたが得意なことは何ですか？

[]

6. あなたが苦手なことは何ですか？

[]

7. あなたが今やっていて楽しいことは何ですか？

[]

8. あなたはどんなことにワクワクしますか？

[]

9. リスクがないという前提で、挑戦したいことは何ですか？

[]

10. 過去にやる気があったのはどんな時・どんなことでしたか？

[]

自分が忘れていた出来事や感情が、いくつかあるのではないのでしょうか？ 過去を少し振り返ることで、自分のモチベーションを上げるのに必要な要素は何なのか、自分が大事にしていることは何なのかがわかると思います。この作業は、忘れていた気持ちや記憶をよみがえらせるのにも大切なことです！

リスタートする人もしない人も後悔を少なくするために提案します。

自分で用意する会葬礼状“こころの置き手紙”

大切な人に言葉を残せるひとつの手段

家族が亡くなった時、「父は(母は)、最期に何を言いたかったのだろうか？」という遺族の言葉をよく耳にすることがあります。

何か少しでも言葉が残されていれば…というのは、残されたご家族共通の想いではないでしょうか？

一方、故人は家族や友人に対し、生前、面と向かって伝えられない気持ちを言えずじまいで旅立ってしまうことがほとんどだと思います。

この双方の想いをつなぐのが自分で用意する会葬礼状“こころの置き手紙”です。

現在、通夜・告別式で配られる会葬礼状は遺族が用意するものです。しかし、葬送される当の本人が元気なうちに、家族や会葬にきてくださる方々に対して“こころの置き手紙”を用意することは感謝の気持ちを現すひとつの方法だと考えます。

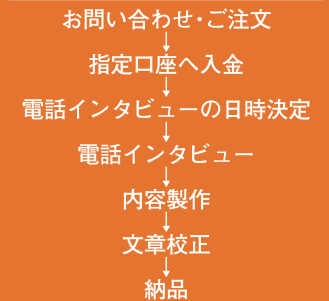
インタビューを受けて書いてもらう

「自分で会葬礼状を書くのはなかなか…」という方が言いたいことを残せるよう、ライター・櫻木よしこが電話インタビューをもとに文面を作成します。

インタビューを受けることは、それまでの自分を振り返り、様々なことを思い出すきっかけにもなり、家族との関係を再び確認することにも繋がります。何よりも気持ちのうえで後悔を残さないように、伝えたいことはしっかりと自分の言葉で残すことが大切です。



製作の流れ



料金/22000円

お問い合わせ yoshikoskr@gmail.com

ホームページ http://oki-tegami.jimdo.com/

“こころの置き手紙”ワークショップ

自分で自分の会葬礼状を書いてみるというワークショップです。実際に内容を考えながら、書きながら、様々な思いがこみ上げてきます。自分の“死”を見つめることは、普段の生活のなかではありませんが、ワークショップという限られた時間の中で、会葬礼状を書くことにより体験してみませんか？ 想像以上に気持ちの変化があるはずですよ。

●内容

1. ワークシートを使い、書く内容を絞り込む
2. 実際に時間内で原稿を書いてみる(600字程度)
※時間内に終わらなければ、自宅にて書く

●場所/鹿児島市

●所要時間/2時間

●講師/櫻木よしこ

●参加費/5000円

※文章の添削希望者はプラス1000円

●個人対応も可

※鹿児島県外での開催希望も応相談

お問い合わせ yoshikoskr@gmail.com

動き出すために必要な 4つのツールを準備する

アイデアが見つかり、やりたいことが決まったら、自分を知ってもらうためのツールは不可欠です。ここでは、準備すべき名刺、フライヤー、ブログ、セルフマガジンについてご紹介します。

名刺作成のポイント

名刺に会社名、肩書、名前、連絡先のみだけではもったいないです。名刺の作り方ひとつで会話がうまれ、仕事獲得にも繋がります。

●表面作成のコツ

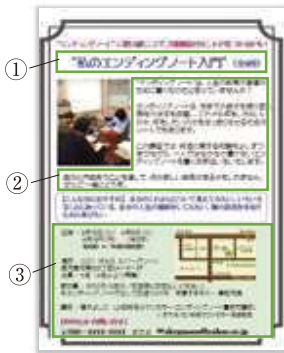
- ・顔写真を入れること
(信用を得るため、印象を残すために重要)
背景まで写った写真を全面に使用するとインパクトがあり興味を持たれます。

●裏面作成のコツ

- ・自分の業務をコンパクトに掲載
業務をわかりやすく掲載することにより、仕事の問い合わせが発生しやすいです。



<p>【編集・ライター業務】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種原稿作成 コピー/校正/リライ 	<ul style="list-style-type: none"> 雑誌、書籍、広告、ホームページ等 文書、手紙、スピーチ 企業パンフレット、社内報、広報紙 商品案内、プレスシート等 文章作成のスキルアップサポート (メール・ブログ/個人対応可) <p>※文章に関することならお気軽にご相談ください。</p>
<p>【総活カウンセラー関連業務】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 総活カウンセラー (社) 総活カウンセラー協会認定 ■ エンディングノートの書き方セミナー講師 (社) 総活カウンセラー協会認定 (個人対応可) <p>※すべての業務料金は、案件により異なりますのでお気軽にお問い合わせください。</p> <p>〒1000-0000 鹿児島市〇〇〇〇-〇-〇 Tel & Fax: 099-000-0000</p>	<ul style="list-style-type: none"> 総活ワークショップ エンディングノートの書き方講座 (個人対応可)



フライヤー作成のポイント

フライヤーを作るのに大事なものは、タイトルの大きさです(①)。本文の字の大きさとあまり差がないと目立たないので、タイトルは思い切って大きくすること。また、講座詳細(③)の文字を大きくしがちですが、講座内容の文字(②)のほうを大きくしましょう。内容の文字が大きく読みやすいことがポイントです。そこで講座に興味を持ってもらえれば、講座詳細の文字が小さくても読んでもらえます。また、自宅のプリンタで印刷する場合、市販の和紙タイプのものや若干厚めの紙を使用すると安っぽくならず、しっかりした感じが出ます。

ブログの発信は自分の旗を掲げるといふこと

伝えたいことやアピールしたいことがあるなら、ブログを書くことは必須です。書かない理由はありません。すぐにブログを作り、完璧に仕上がってなくても、まずはスタートさせることが私の経験上、大切だと思います。お役立ち記事、共感記事、レポート記事などをネタに、毎日更新することがポイントです。私自身、日々更新することにより、編集の仕事やエンディングノート講座の仕事を獲得しています。



<http://ameblo.jp/syd1990/>

セルフマガジン作成のポイント

“セルフマガジン”とは、個人版会社案内のようなこの冊子のことです。名刺やフライヤーでは伝えきれないことを盛り込み、自分のことを伝えたい・知ってもらいたい、販促につなげたいということが作る目的です。そしてブログ等へも誘導でき、かつ郵送も可能なので個人のブランド力を高めるのにとても役立ちます。

セルフマガジンの製作方法

セルフマガジンを製作するには2つの方法があります。

- ①自分で製作…パワーポイント、イラストレーターといったソフトを駆使してページを製作し、印刷会社へ入稿。
- ②プロにオーダー…編集者、グラフィックデザイナーに製作を依頼(場合によってはライターにも依頼)

LET'S TRY 自分でセルフマガジンを作ってみよう! ~基礎編~

- ①どんなマガジンにするかを考える
(何を打ち出したいのか、誰がターゲットなのか? 等、入れる内容を用意する)
- ②だいたいページ数と版型(雑誌のサイズ)を考える
(最低8ページ、それ以上は4の倍数のページ数を追加可能)
- ③①で考えた内容とそれに合う写真やイラストを用意し、雑誌などを参考にラフレイアウト(写真参照)を書いてみる
- ④ラフ案に基づき、自分が使えるソフトでページを作成し、そこに文章や画像を入れていく
- ⑤出来上がったら、プリントアウトして見て校正・修正作業を納めるまでくり返し、完成させる
- ⑥印刷会社に入稿する
※プロにオーダーする場合、①~③まで用意するのが好ましく、これらをもとに相談し、製作に入る



様々な種類のセルフマガジンが作られている。作るにあたっていろいろなパンフレットや小冊子などを集めるのも大事な下準備です



もっと大きめのラフレイアウトでももちろんOK

リスタートのきっかけは“かさこマガジン”



“かさこマガジン”とは、“好きを仕事にする大人塾”=かさこ塾塾長かつカメラライター(カメラマン&ライター)でもあり、パワーブロガーの“かさこ”さんが無料配布しているセルフマガジンです。かさこさんのセルフマガジン5「人生を楽しく生きるためのセルフブランディング術」がきっかけで、私はリスタートしました。フリーランスでありながらマガジンに書かれてあった“セルフブランディング”が、まったくできていなかったのです。

※かさこさんのセルフマガジン(無料配布)を希望する方は、下記のHPからお問い合わせください。かさこさんHP <http://www.kasako.com/>

IDEA

アイデア



何をやりたいのか？

+

TOOL

ツール



やりたいことを発信、
紹介する方法



リスタート

櫻木よしこがRestartをサポートします！



編集者



ライター



上級終活カウンセラー



エンディングノート書き方講師

※“上級終活カウンセラー”、“エンディングノート書き方講師”は、ともに「一般社団法人 終活カウンセラー協会」が認定する資格です。



上級終活カウンセラー エンディングノート書き方講師として

なぜ2つの資格を取得したのか？

自分で用意する会葬礼状“こころの置き手紙”（P7参照）を発売し、リサーチをしているときに“終活カウンセラー”という資格を知りました。これから自分も含めて、終活を必要とする人がたくさん出てくるだろうと感じ、自分が取り組む“こころの置き手紙”とも関係していることから、まずは初級資格を取得。さらに知識にプラスして、人に伝えるスキルを学ぶべく上級資格取得にも取り組みました。

また、エンディングノートは、“終活”への入口となる大切なツールなので、書きこむ項目についても学びたいと思い、書き方講師の資格を取得しました。学びながら、エンディングノートは人生の棚卸し作業の部分がポイントで、迷いながら生きている人たちにも有効なものだと実感。以降、“人生を振り返り、そこから何かを見つける”ことにも重きを置き、講座を開講しています（P5参照）。

私が考える終活とは？

“終活とは人生の終焉を考えることを通じて、
今をよりよく自分らしく生きる活動のこと”
（「一般社団法人 終活カウンセラー協会」が掲げる定義）

終活というと、どうしても「葬儀」や「墓」「相続」といった終焉の部分のみがクローズアップされ、今の自分にはまだまだ関係のないことと見向きもしない方が多いです。

人生の終焉に向けて準備をするということは、今の自分の考えや現状がわかるということです。逝く側・残される側、そのどちらの立場になってもトラブルなく事が運ぶよう少しずつでも準備しておくのが肝要です。一方、一度しかない人生を心残りなく過ごすのも、また大事なことです。終焉に向けて準備万端に整え、自分の人生を精一杯生きることができればこれ以上はないと思います。終活はそういうベストな状態へ、より近づくための活動ではないでしょう。

年齢に関係なく終活を通して人生の棚卸しをすることにより、リスタートやその後の人生が前向きになっていくきっかけになれば、そういう想いで終活を推進しています。



終活ワークショップ“Petit shu”（プチシュー）のご案内

鹿児島県の終活カウンセラー仲間3人で50+（フィフティプラス）という団体を作り、毎月終活ワークショップを開催。“Petit shu”（プチシュー）とは、フランス語で「小さな」という意味のpetit（プチ）と、「終活」のshu（シュー）を組み合わせた造語です。毎月違うテーマで講座を展開し、20～60代の方々が参加してください。講座は2部制で前半で学び、後半で生き生きと楽しめる内容を準備しています。気難しく考えず、「終活ってちょっと気になる」という方は、お気軽にご参加ください。

- 場所 / マルヤガーデンズ（鹿児島市）
- 日時 / 毎月第3水曜日、10:30～12:30
- 参加費 / 2000円
- お申し込みは50+ホームページからどうぞ→<http://110010.jimdo.com/>



編集者・ライターとして



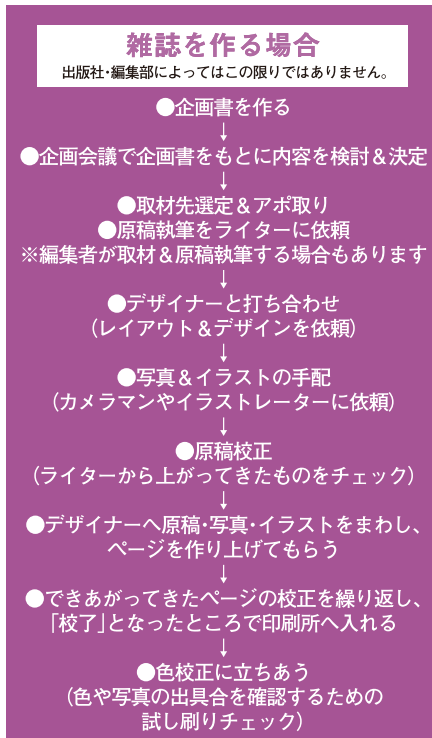
なぜ編集者・ライターになったのか？

20代の頃、シドニーでワーキングホリデーメーサーとして、日系の現地観光新聞社で運良く採用された私の仕事は、いわば“パシリ”でした。銀行や郵便局へ行ったり、営業サポートをしたり。その合間に編集者たちの取材に同行し、通訳っばいこともしていました。毎月、グルメ取材があり、食いしん坊の私にとってそれは“趣味と実益を兼ねる”そのものでした。当時、ペアを組んでいた編集者の進言により、試しにグルメ記事をひとつ書き、編集長に提出したところ、翌日から編集部へ移動になりました。

彼女の薦めがなければ、私にチャンスは巡ってこなかったと思います。私の編集者・ライターとしてのキャリアはここからスタートしました。

編集者という仕事とは？

“編集者”の仕事は、ひとことで言えば、“本作りのプロデューサー”みたいなものです。ここでは編集者(雑誌)の仕事を簡単に説明してみます。



リスタートしながら重ねてきた実績

シドニーの観光新聞「Japan Press」を皮切りに、現地にて「オーストラリア留学事典」(アルク刊)、「地球の歩き方 オーストラリア編」(地球の暮らし方 オーストラリア編)(ダイヤモンド社刊)等の取材、編集、ライティング、広告コピーライティングに携わる。

帰国後、東京にてフリーランス編集者・ライターとして留学・海外旅行関係の出版物に携わる。

その後、鹿児島の情報誌「月刊 LEAP」にて副編集長を務めたのち、再びフリーランスとして活動を開始。留学・海外ものをメインに海外取材、原稿作成、リライト、校正等を手がけ、「今すぐ美肌習慣」(小峯貴子著・幻冬舎ルネッサンス刊)の編集も担当、現在に至る。

ツール作りのお手伝い

サポート 実例

効果的な名刺・フライヤー を作りたい(P8参照)

どのような内容(または写真)を入れたいのかをヒアリングし、表・裏面の内容をまとめます。
●料金/3000円～
(場合によっては、デザイナーまで手配可)

正式なプロフィールを用意したい

自分のプロフィール(パンフレットやホームページ・ブログ等に記載用)は、自分ではうまく書けないという方が多いです。そこで、プロフィールに盛り込みたい内容の素材をいただいて、またはインタビューして書きます。このプロフィールがあると、その後、文字数に合わせて簡単にアレンジできるので、ひとつ用意しているとても便利です。
●料金/4000円～(素材)
7000円～(インタビュー)

セルフマガジンを作りたい (P9参照)

企画の段階から編集者として一緒に作り上げていきます。または、企画、ラフレイアウトに対するアドバイス等、文章の校正もいたします。どのような部分でサポートが必要なのか、お気軽にお問い合わせください。
●料金は見積もりとなります。
(場合によっては、デザイナーまで手配可)

ブログを書くのが苦手です

- ①文章作成のスキルアップサポートをします(ブログ・メール・メルマガ)。1か月の間に3回分のブログ等の文章・内容をチェックし、アドバイス。
●料金/5000円(3回分)
- ②ブログを書くのが面白い、日々更新したくなるような“ブログの文章アドバイス講座”も開きます(ブログ文章アドバイス付き)。
●料金/4000円～(90分)
※個人アドバイスも対応可

自社ホームページの 文章に自信がない

ホームページの原稿を自社で書いた場合、誤字・脱字、妙な言い回しの文章をよく目にします。また、「貴方」「全く」「有難う」等の表記も間違いではありませんが、一般的ではありません。そういう部分も整えながら、ホームページ上の文章を校正します。今からホームページを作るという場合にも対応します。
●料金は見積もりとなります。

スピーチを頼まれたけれども 文章を書くのが苦手

会社関係の会合や各種パーティー、結婚式等でのスピーチ原稿の作成、校正もします。
●料金は見積もりとなります。

番外編 お店に出すメニューを悩んでいる

仕事柄、日本国内はもとより海外のグルメ(B級～高級)も食べ歩いた経験から、いろいろな提案ができると思います。
●料金は応相談となります。

サポートメニュー一覧

- ◎各種原稿作成、校正、リライト
- ◎スピーチ・講演用原稿作成
- ◎セルフマガジン製作(企画・ライティング・編集)
- ◎文章作成スキルアップサポート(ブログ等)
- ◎ブログの文章アドバイス講座
- ◎オフィシャルプロフィール作成(リライト、インタビュー)
- ◎名刺・フライヤー内容作成
- ◆その他の講座実績:「役に立つ文章教室」「プチセルフブランディング講座」 お問い合わせ yoshikoskrg@gmail.com



“リスタート”に必要なもうひとつのこと

アイデアとツールが揃ったら、あとは自分がやりたいことを世の中に“発信”していくことになります。あなたが発信する内容に興味を持ってくれる“誰か”に出会うために、リアルとネットの両方で動いてみましょう。

直接誰かと会うことで自分なりに手応えを模索する

いろいろな場所に顔を出して“自分を売っていく”ことが展開のスピードを加速させます。初対面の人と「何を話していいかわからない」というときにも、自分が用意した印象的なツール(名刺やフライヤー、セルフマガジン等)さえあれば、話のきっかけになります。より多くの人と会い、伝えることがポイントです。

実際に私は名刺交換をした際に、“名刺の裏に業務内容を書いていた”ことと、“ひと味違う名刺だった”ということで、仕事につながるお問い合わせをいただいています。さらには、編集という仕事に興味を持っていただき、“ブログ



の文章アドバイス講座”という思わぬオファーも舞い込みました。ポンポンと話が進むのもリアルな出会いならではの醍醐味です。

ネットで誰かと繋がり始めると意外な展開も



居住エリアで動くだけではなく、ネットを使うのリスタートも同時に始めてみませんか？
まずはブログでやりたいことを発信し、それ

をFacebookやツイッターでシェアすると、さらに広い世界へ拡散されていきます。そうすることで、価値観が近い人との出会いもそこには待っていることでしょう。ネットで発信するメリット、デメリットも自分なりにリサーチするのも大事なことです。

私は、ネットを通して今の自分と考えが近く、物事を共感しあえる友人を見つけました。さらには、ブログに掲載しているプロフィールがきっかけで、面識のない方からもエンディングノート講座の依頼もいただいています。

リアルとネットの両方で行動し始めると、今はまだ想像もできない出会いがそこには待っているはずですよ。

Writer & Editor/ Yoshiko Sakuragi

Art Designer/ chihiro

Location (cover & P2,16)
COFFEE & GALLERY AO
<http://www.aewood.jp/cafe/>

In Association with Takayuki Hirakawa
©Yoshiko's Magazine "Restart" 2016



頭で考えても答えは出ない、だから一歩外へ踏み出そう

社会人になってからシドニー・東京・鹿児島と仕事をする場所を変え、会社勤めからフリーランスになり、何度かリスタートしてきました。

ことあるごとに「あのときの経験が、今後何の役に立つのだろうか？」と疑問を持ち、経験と経験が直接繋がっていかないことにジレンマを感じていました。しかし、私自身を振り返ると、やりたいことのヒントはこれまでの数々の経験の中にあっただけです。それらのヒントをか

き集めて、今ひとたびリスタートしました。年齢とともに気力も体力も落ちていき、命には限りがあることを実感します。


リスタートするために万全の準備をと思いついて感っている間に、時間は過ぎていきます。だから準備は万全でなくとも、可能性を信じて燃料切れになる前に走り出す。

一年後のあなたは、今とまったく変わらないあなたのみままでいいですか？



櫻木よしこ／プロフィール

 <http://ameblo.jp/syd1990/>

 <http://yoshikosakuragi.jimdo.com>

 <https://www.facebook.com/yoshiko.sakuragi>

 yoshikoskr@gmail.com

鹿児島市在住。鹿児島純心女子短期大学英語科卒業後、子供英会話教室の講師として勤務。1990年、海外で働くという夢を叶えるべく、ワーキングホリデーメーカーとしてシドニーへ。シドニーの出版社2社で編集者として5年間勤務後、帰国。帰国後、東京でフリーランス編集者として活動し、鹿児島の出版社にて副編集長を務めたのち、再び、フリーランスとしてリスタート。2014年以降、終活カウンセラー初級・上級およびエンディングノートの書き方講師の資格取得。現在、終活ワークショップならびに個人・グループを対象にエンディングノート講座も開催。